令和３年度　学校関係者評価報告書

Ⅰ．学校関係者評価の概要と実施状況

１．学校関係者評価の目的

１）教育に関し知見を有する者、看護管理者経験者、卒業生、保護者等の学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

２）学校関係者との連携協力により、特色のある学校づくりを推進する。

２．学校関係者評価委員

規程	所属　氏名
教育に関し知見を有する者	大学教員養成センター　　教授 看護大学校　　副学校長
看護管理者経験者	臨地実習施設　　看護部長
卒業生	卒業生（19 回生）
保護者等	保護者（73 回生叔母）

３．学校関係者評価実施日

評価日時：令和４年３月２４日（木）　１４：００～１５：４５

方　　法：WEB 開催

Ⅱ．令和３年度　看護学校目標

１．看護教育の質の向上

２．国立病院機構及び社会に貢献できる学生の確保と育成

３．コミュニケーションが良好で相互協力体制が充実した教員組織の構築

４．社会に開かれた学校運営

Ⅲ．目標についての取り組みと今後の課題

目標１．看護教育の質の向上

取り組み	○教員の教育実践力の向上 ・学生の到達度及び授業評価と結果の活用（講師へのフィードバック） ・授業研究とリフレクションを活用した教育内容の検討 （新採用者を除く 10 名全員実施） ・実習指導におけるカンファレンス研究見学（6 名実施） ○実習指導の充実にむけた臨床との連携強化 ・実習指導者と連携した実習前指導方法の活用（演習参加） ・COVID-19 における実習内容調整（WEB 実習・学内実習の検討） ・実習指導者育成の支援（指導者会議・実習指導者研修企画・運営） ・教員インターンシップの実施（3 施設 4 名受け入れ） ○改訂カリキュラムの効果的運用に向けた調整 ・ICT を活用できる環境の整備・ICT プロジェクト活動 （健康管理・連絡網の見直し、Wi-Fi 環境の整備、e テキスト導入準備） ・ICT 活用状況（学生交流会の WEB 開催、実習まとめ会・ケーススタディ発表の WEB 開催、演習授業のオンライン授業への変更など） ・IPE（多職種連携教育）の実施（臨床工学技士との連携教育実施） ○教員の専門領域のキャリアアップ ・各教員の学会発表（3 題）研究取り組み（7 題） ・実務研修実施（臨地 6 名、訪問看護ステーション 5 名）
今後の取り組みと課題	国立病院機構の組織としての臨床の関係性といった利点を活かし、現状の取り組みついて、継続していく。 なかでも、実習指導者との連携により、実習指導者の姿から看護師に求められる態度について学び、実習への動機付けに繋がっている。このような取り組みを継続させたい。 また、実習に制約がある状況で、どうすれば臨床のリアルを伝えられるか、臨床とともに検討していくことで、指導力の強化を図る。

目標２．国立病院機構及び社会に貢献できる学生の確保と育成

取り組み	○学生募集活動・広報活動の充実 ・SNS の運用（インスタグラム開設 3 か月で投稿 15　フォロワー100 超） ・在校生による高校への近況報告シート作成 ○入学試験の応募状況（減少傾向） ○入学定員数 80 名確保 ○NHO への就職率 70%以上（77.3%） 大阪府下への就職率 80%以上（82.7%） 卒業率 90%以上（97.7%）　　退学率 2.3%

今後の取り組みと課題	入学試験応募状況について、他校も同様に減少傾向である。新型コロナウイルスの影響で、これまでは複数校受験していたものを 1 校に絞っていることが考えられる。そのような中で、社会人や大卒者の応募人数にそれほど変化がないのは、国立であることや立地条件などが強みになっていると考えられる。質の高い学生の確保に向け、現状把握・分析を行い、学生募集活動の充実を図る。

目標３．コミュニケーションが良好で相互協力体制が充実した教員組織の構築
目標４．社会に開かれた学校運営

取り組み	○教員間の業務調整によるタイムリーな学生支援体制 ・学生によるカリキュラムに関する満足度調査　平均 3.0 ・業務調整による働き方（超過勤務時間 平均 2.13 時間／月） ・充実した余暇時間の確保（年休取得　8.3 日／人） ・中堅看護教員研修での課題として、学年担当内でのリーダーシップ、メンバーシップのあり方改善トライアル ○社会に開かれた学校運営 ・Web 活用によるオープンキャンパス・学校紹介、公開講座の実施
今後の取り組みと課題	引き続き、業務調整・学生支援体制の強化に向けた取り組みを行う。それと共に、母体施設と連携して卒業生のフォローを強化していくことで継続教育の強化や、基礎教育での教育内容の精選につなげていく。 レジリエンス力や自律する力を持った学生を育てるため、依存度が高くならないよう、担任制の見直しを含めた教員の支援体制の検討が必要である。

総評：看護学校は変化への対応が弱い傾向にあるが、今回 ICT 活用が教育を変化させる大きなきっかけとなった。リアルタイムでのやりとりやレスポンスのよさが学生の気持ちに変化をもたらし、深い学びに繋がると考える。今後も、タイムリーな変革を探求し教育を実践していく。